



これは1月終わり、雪の山形へ出張に行った時の「真冬の北国見聞録」である。

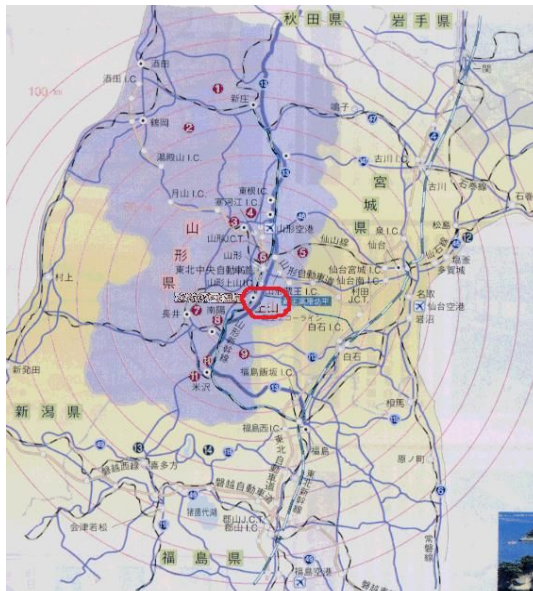
この出張の数日前から、朝のテレビNHKの天気予報で、普段は気にすることもない東北地方の状況が気になりはじめた。日程は変えようもないが、本格的な雪になりそう・・・

山形へ行くには、JR新幹線にするか、空路で行くかのどちらかがある。新幹線の場合、福山～山形の少し手前になるかみのやま温泉(JR駅名)までは、うまく乗継いでも、約7時間かかる。

山形新幹線は、福島までは東北新幹線と同じルート、福島から分かれており、それは丁度時代劇でお目にかかる十手の形に似ている

山形へはこれまでも、3度来た事はあるが冬場は今回が初めて。天気予報では、かなりの雪になるとのこと。「雪の山形って、どんなところだろう・・・」と期待と不安が錯綜する。

新幹線が北上するにともない群馬県郡山辺りから時折、小雪が舞うようになった。福島を過ぎると、雪の積もって白くなった所がハッキリと目につくようになる。そして電車は日本の背骨とも云える中央山脈の方へ・・・山の中へ進んで行く。瞬く間に白く見えるところが、つながってきて一段と寒そうな風景に変わってきた。



巨匠「川端靖成」の「雪国」・・・「トンネルを抜けると雪国だった」の一節を思い出す。いくつかのトンネルを通る度に、その雪の量が増えて行き、車窓から見る木立はまるで巨大なクリスマス・ツリーが無数にあるよう。米沢辺りから、盆地のため周囲が広がってきたが、相当の雪でもうどこが何処だか判らなくなった。こんな大雪を見るのはスキー以外では初めて・・・積雪は、ゆうに60Cmは超えている。車窓から見ると、積雪は浅い所と、深い所があり、多い所は墓標や、フェンスも半分程埋まっている感じなので、ヤレヤレこれは・・・「まあ、どうにかなるだろう！」と自分に言い聞かすしかなかった。それにしても、機械搬送のトラック(福山名和運輸)は大丈夫だろうか？

今回訪問するユーザーは山形県南陽市で、温泉で有名な「赤湯」と「かみのやま温泉」の間あたりになるので、かみのやま温泉の「三木(さぎ)屋」に予約してもらった。かみのやま温泉の駅に「観光案内所」があったので、車でどのくらいの距離になるのか？尋ねたところ「この辺り(の旅館)では、お客さんの送迎をしてくれる旅館もありますよ・・・一応、電話して見られたら如何ですか」とのこと。・・・そりゃいいや！・・・何事も経費節減。早速、予約先の旅館へTELすると、ふたつ返事で「お迎えOK」とのこと。

駅から旅館までは、そんなに遠い距離ではなかったが、ナント・・・見かける、どの車もチェーン等つけてはいない・・・旅館の番頭さんに尋ねたところ「大丈夫ですよ・・・このくらい！」「雪はこれから本番ですから・・・」この地方に住むには、横着者には不向き？ナンたって、道すら何処だか判らないくらい積もるので、否応なしに、雪掻きはしなければならぬし、屋根の雪降ろし・・・屋根に上がるの大変危険！平地でも滑り易いのに・・・まして、そこらじゅう雪だらけだから・・・そりゃア・・・もう大変！なんとか、旅館に来るだけは来たが・・・外には出れない状態。旅館の方も、シーズンオフなのか？・・・がらんとして、どこかのんびりムード。

早速、お風呂を頂く事に・・・

「オ～おう、こりゃア、エエウ・・・」湯煙で向こうがかすんでよく見えない程の大きな浴槽のほか、外には、露天風呂(庇つき)もある！

* * *

温泉情報：

弱アルカリ性

Na,Ca,硫酸イオン、塩素イオン

源泉 64°C

天然100% かけ流し

水はきれいで気持ちが良い



ナンたって、ここは正真正銘の天然温泉！
自然の恵みによって、沸いて出るので・・・
原油高には関係ない・・・中東の産油国
サウジやイラク等はイラン。（要らない）

とにかく、雪見をしながらの露天風呂は格別かつ、最高！

平素、こうした出張はビジネス・ホテルと大体相場が決まっており、味気ないものであるが、やはり今回の、かみのやま温泉の旅館「三木屋」は、純日本式で温泉もありとてもしっとりとした感じ。食事も朝夕、仲居さんが部屋まで運んでくれるし、これでナント 10,500円/日（2食）だから安い。

私は家に帰ったらテレビは、殆ど見ない。

さては、実はテレビがないんじゃないか？・・・とご心配して下さる方がおられるかも知れないので敢えて言い訳しておく・・・我が家にも大型の“世界の亀山モデル”や“ブルーレイ”がある。

但し、テレビはもっぱら、家内専用・・・まア、飽きもせず“よく韓流ドラマ”を見ている。

私は仕事から、パソコンに接する時間が長いので、目をいたわる点で、家に帰ったらテレビは見ないように努めているので、それがなれば習慣のようになっていいるから・・・このような所に身を置くとお茶（酒）を飲むか温泉に入る以外これと言ってすることもなし・・・

一人旅の静寂・・・ただ、ぼんやり雪でも眺めるしかない。

ヨ～シ！それならこの雪国の新鮮な想い出を忘れないうちに、雪国見聞録でも書く事にするか！

そう言えば、よく作家の先生が、情緒があって、ひなびた旅館に逗留して、作品を書き上げたと言う話を聞いたり読んだりしたことがあるではないか！

自称“作家”気取りで、しばらく熱中して、ペンを走らせているとかなり、足の方から冷え込んでくる。部屋と浴場は近いし、風呂好きだから、何回でも別に苦にはならないからまた、お湯へ！

あまりお客さんもないようで、もう静まりかえっている・・・辺りも暗い露天風呂へ入ってしんしんと降り雪を眺めていると、雪女の物語を思い出す・・・雪女のイメージは、もともとスタイルの良い美人？（ウチのカミさんのように、丸っこいのはダメ）・・・なんて・・・勝手なことを想像しているとどこか、その辺りの木立の陰から現れるよう・・・

雪の夜は寒いじゃろう！・・・何も無いけど・・・暖まって～行きなヨ～♪



翌朝・・・庭に面しているガラス戸を開けると、大きな木の枝の中で何やら動いているものがある・・・鳥らしきものだが、何だろう？・・・大きいし尾っぽが長い・・・2羽の雉（きじ）であることが判った。すぐ目と鼻の先の距離なのに、怖がる様子もしない・・・とっさにビデオカメラを取り出し撮影した。やがて鳥は中庭に下りて、雪の中を散歩しだした。後で、旅館の仲居さんに聞いたところ飼っているものではないが、時々つがいで飛来して来るのだと言う。旅館の庭の落葉樹の実を食べに来ているものと思うが、これも自然が豊かな現れである。

最初、温泉で話した人（その夜見かけたのはその人だけ）は、年配の方でおそらく、こここの宿よりもっと（山）奥の人なのかも？ その人には、その人なりに、味があるが、本格的なローカル口調で何を言っているのか・・・半分は意味不明？何度も聞き返すのも悪いし・・・とうとう適当に相槌をうったところで、話を切り上げた。これなら・・・まだ英語の方がまし？

2日目の夜、露天風呂で一緒になった人は、40歳半ば位の人懐っこい、愉快的感じの人。彼の方が、後から入ってきたので、むこうから話しかけてきた。

「何処から来られたのですか？」と（私から）尋ねると・・・「**モ*ダア**」・・・私にはシモダ⇒（下田）と聞こえた・・・「はア、静岡県の・・・静岡県の（伊豆）下田ですか？」

相手が、きょとんとして・・・何をトンチンカンな事を言っているのかな？と言う風な顔つき・・・

「イヤア、コッカラ、車で10分位の所ッス」・・・（こりヤア失礼）「**モト**--（**ダア**）」=正解は地元（だ）の意。つまり山形弁には独特の（英語のような）アクセントがあり「**モ***」はモ、**ダア**に比べて発音が弱いため、耳が慣れていないと**モ、ダ**（ア）が強調されて聞き逃す。

なんでも、従妹同士で家族会を行って、今夜は（酒会のため、奥様連のご意見を取り入れて）泊りにしているのだとか（いいですねエ）。私が、広島から来た事を告げると、それからは臨機応変に・・・手加減して分かり易い山形弁？で話してくれたせいか・・・問題はなかった。

雪の事をたずねると、例年に比べ半分だと言う・・・何か（地球）温暖化のせいかも知れないが、樹氷で有名な蔵王が近くにあるが、年々高いところまで、登らなければ見られなくなったとか・・・

面白い話として一樹氷の見物にはスキー客と同じリフトを使うのだが、観光客はリフト待ちの長い列が出来ていても、すぐ乗せてくれるのだという・・・

「どうしてですか？」と質問すると・・・「よく知んねエけどよオ、スキー客は、片道しか乗んねエベ」観光客はスキーをもっていないからすぐ判るし、どうも往復利用者優先となっているようだ。観光客は防寒対策もスキー客と比べ十分ではないので、防寒着も貸してくれるそうだが、慣れてないので効果を発揮できるように、着ていないものだからあまりの寒さに耐えかねて、途中で引き返す者も多いとのこと。

さて仕事だが、泊まった旅館から、国道13号線に沿って約20分程度でタクシーで移動。

呼んでもらったタクシーの社名は、「観光タクシー」・・・従って、運転しながらも、外から来たお客さんの関心事には、ほどよく答えてくれる。

雪景色の中を通るのであるが来る時、新幹線の窓から見かけた光景とはまた一味異なるものがある。この方の人にとって、ウンザリする程、見飽きた光景でも、全て・・・私達にとっては新鮮に映る。

雪が一樣に積もらないことに話が及んだところ、「そりゃア、お客さんこの方の雪はすごいですよ！何たって、雪は下からも降るンですから・・・」？この辺りに降るのは、きめの細かいP-Snow. そう言えば、来る道の国道脇に『右折自粛』・・・と言う交通標識を見かけた。

・・・そんな“交通ルール”・・・あったけ？

吹雪になると下の雪が舞い上がって、並んで走っている前の車さえ見えなくなる程だそう。

従って、吹雪の時は、右折するのに道路中央で止まったりすると、危ない・・・つまり後続の車が、前がよく見えないので気付くのが遅れると追突する危険があるから、そんな日は右折しないようにとの呼びかけの標識なのである。

ユーザーの工場へ着いて、搬送のトラックが無事着いているのを確認し・・・ひとまず安心。

何気なく工場の屋根のほうを見てびっくり！

氷の“つらら”が屋根から、まるで“伊賀の忍者よけ”のように垂れ下がっているではないか！

長いものでは、根っこから、尖っている先まで1.5mもある。

まるで槍の先を並べたよう・・・「こりゃア、危ないな！」・・・いつ落ちてくるか分からないのでうっかり軒下には、近づけない！」

良く見るとドアに「氷の落下注意」と書かれたプレートが貼ってあった。

この度、納入した機械は、約7ton。

搬送はトラック業者、機械引込み&据付けは、ユーザー手配で地元に近い、重量物取扱専門業者で、全部やってくれるから、見ているだけで全く、手出しは無用。

必要な事があれば、尋ねてくるので指示を出す。

この度は、珍しい雪国へ行くので、SONY Handycam を持参し、めったにお目にかかれないところを話の種に撮しておいた。



〔写真〕

上左: 工場の裏手の雪

上右: 工場の窓にかかる槍のような氷のつらら

下左: 機械の荷降ろし作業

下右: 設置後の機械 最新HR70LW-type

機械を工場へ引き込む時は、丁度雪も降ってなくて、大勢の作業者が携わってくれたので荷降ろし〜据付け迄の一連の仕事も順調に事が進み、早く終了した。 やっぱりモチ屋はモチ屋。御指導、引き渡しもオペレーターの方の飲み込み（習得）が良くて、すんなり・・・思ったより、早く終わり帰りに、来た時のタクシーに、迎えを頼むべくTELすると、「そちらに行く迄に1時間ほどはかかります」とのこと・・・結局、ユーザーの社長さんに旅館まで車で送って頂いた。

旅館のスタッフは、以外に早く帰って来たものだから、部屋をまだ暖めていなかったことへの気遣いをしていたが、「あゝ、そんなことイイですよ・・・風呂でも入りますから・・・」さて、昨日の続き雪国紀行でも、また書くとするか！

作家気取りと言っても、実は昔、小学校の頃は作文が大嫌い！だった。（イヤ・・・になった）小学校の頃、作文の宿題の書き出し始めが、『朝起きて、顔を洗って、ご飯を食べて・・・それから学校へ・・・』先生曰く、「（笑）お前ナア・・・こんなの作文じゃないヨ！」「だって、この前先生は、作文の“カタチ”って、何でもイイんだよ・・・って言ったじゃないか！」皆の前で、恥をかかされた思い出があり、それ以来、作文は嫌い・・・どうも苦手だった。俗に言う“幼心が傷つく”・・・それで、発奮するか否かは、その後のフォロー次第だから難しい。

余談： 旅館の“お土産コーナー”は質素なものが並んでいて、素朴な“道の駅”の感じ・・・そこに、山形のタクシーのカレンダーがかかっていたが、何故か・・・1月が神輿を担ぐ祭りのシーン。良く見ると、ナント担ぎ手の中に、若い女性の姿もあるではないか！ネジリはち巻きに威勢のいい祭りの半被姿。下はサラシで男衆と同じだが、胸の谷間もチラリ！楽しそうな「わっしょい！、ワッショイ！！」の掛け声が、今にも聞こえてくるような感じ。これは、・・・これを見に来るだけでも、価値がありそう・・・

この出張3日程前に、重たいカゴを移動させていて腰の筋が痛くなった・・・ギックリ腰ではないがこの温泉に入り、筋を伸ばしていると、良くなったよう・・・！もし、生活時間や経済的にゆるされるなら・・・2～3週間ここで骨休みすれば長生き出来そう・・・これまで、旅行という・・・海外へは遊び&出張を合わせて、もう約20回近く行ったことがあるが、今回+ ❶雪三昧 ❷温泉三昧・・・日本の温泉何処へ行くづく「やっぱり T.T.アア〜！！」と思った

終わりに・・・

ここ山形は雪国ではあったが、私にとって“幸”国でもあった。しかしここで暮らしていくのは大変な事は、容易に想像出来る。3日目の朝（1/27）は、気温が氷点下7度まで下がったとのこと。温暖な地方に住んでいる我々にとって、まだまだ考えられないような事がいっぱいありそう・・・
 帰りの列車“つばさ”の中で2人の幼児を連れた若い夫婦が近くの席に座った。
 あいにく子供のご機嫌が、どちらも良くない・・・若いパパはむずかる一方の子供の手を取っていやな顔ひとつせず、面倒を見ていた。
 当たり前と言えば、そうかも知れないが、よく協力して、もろもろの育児の世話も共同作業でやっているのを見かけ、「なかなかよくやるなア」と感心するようだった。

ともすれば、子供を作る時だけ、共同作業をして後は・・・（あくまで、一般論としてである）
 のケースも多々あるので、こんな姿を傍で見ていると、なんとなく微笑ましい。
 これを読んで下さる方が心配されるかも知れないので付け加えておく・・・しばらく奮戦していたがやがて子供の機嫌も良くなり、幸せそうなムードに包まれたファミリーの姿があった。

そういえば、旅館の庭の木立に来る野生の雉（きじ）も仲の良さそうなカップルだった。
 この地のように、寒い（自然の厳しい）ところで暮らすには何事も肩寄せ合って生きて行かなくてはならないから、必然的に北国の方が夫婦仲も良いのかも知れない・・・
 私説であるが、統計を取ってみれば、離婚率（の割合）も或いは、低い数字が出るのかも知れない。

山形は冬、このように厳しい寒さがあるが、夏は結構暑くなるとのこと・・・つまり春・夏・秋・冬の四季がハッキリとしていて、自然も人情も豊か・・・どこか日本人の心の故郷がある。
 私にいつでも出来ること・・・それは、ユーザーの皆さん方や、送り出してくれた会社のスタッフ、家族や教会の皆さんのために、祈ることである。

私は教会（クリスチャン）につながってもう4半世紀過ぎた・・・
 この関連の、奉仕をさせてもらうようになって、これは一種のトレーニングなのだという事が分かるようになった。
 これは、ひとつの区切りとして、主が与えて下さった恵みなのかも知れない・・・
 この恵みを独り占めにしては申し訳ないので・・・雪国見聞録にまとめて、皆さんにお裾分けしたい。
 私事では、欠けた者であったが、教会の長老の任期（3年）を終えた。

外は雪ですっぼりの感じ・・・

ここは、冷蔵庫なんて、当分要らないヨ・・・外が丸ごと天然冷蔵庫のようなものだ。
 夜が更けると、冷気が一層まして、しんと冷え込む・・・足もとが寒い。
 布団へ潜り込むと、そこから出られなくなる・・・感謝の祈りもふとんの中から・・・
 お休みなさア〜い！・・・**主に感謝しつつ**

☆これに使用した写真は、ビデオとともに撮影したもので、DVDにも収録済み。



小林 秀穂 *Hideho Kobayashi*

e-mail h_kb8@ybb.ne.jp